

少しずつ暖かさを増す日差しに、確かな春の訪れを感じる季節となりました。

本日ここに、普通科第55回、理数科第47回となる卒業証書授与式を挙げていただきますことを、教職員一同、大変嬉しく思います。ご多用の中をご臨席賜りました来賓の皆様に対しまして、まず厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、今日のお子様の姿に感慨もひとしおと存じます。

ご卒業をお慶び申し上げますとともに、これまで私どもが賜りましたご理解とご協力で深く感謝申し上げる次第でございます。ありがとうございました。

さて、285名の皆さん、卒業おめでとう。高校の3年間には、学園祭や部活動、或いは今なお続く受験勉強などなど、思い出として間違いなく刻まれる場面がたくさんあると思います。その一つ一つの振り返りは、式後半の送辞と答辞に、あるいは式の後のホームルームに譲ることとして、私からは皆さんへ、南高校長としての最後のメッセージを贈ります。

私たちの社会には、さまざまな「マニュアル」というものが存在します。

マニュアルは大切です。社会にとってなくてはならないものです。たとえば、工事現場で安全に仕事をするために、あるいはスムーズで気持ち良い接客をするために、徹底的にマスターしておくべきものです。しかし、マニュアルにとらわれすぎるあまり、時におかしなことが起こる。そういうことも少なくありません。

あるハンバーガーショップでの話です。

孫のサッカーの試合を見に行ったお爺さん。孫から、「試合が終わったら、ハンバーガー食べたい!」とせがまれました。お爺さんは奮発して、チーム全員に差し入れをしようと思い、試合の途中で一人、近くのハンバーガーショップへ行きました。そこでの、店員との会話です。

「ご注文はお決まりでしょうか？」

「ハンバーガー30個ください。」

「店内でお召し上がりですか？」

「え?……。」

お爺さん、思わず言葉に詰まりました。そして、少しイラッとしました。一人で来店したお年寄りが、30個のハンバーガーを一人で平らげる場面を、この店員は予想したのでしょうか。おそらく何も考えず、マニュアル通りの対応をしてしまったのでしょうか。

気持ちよい接客をするためのマニュアルが、客を戸惑わせたり、気持ちを逆なでしてしまう。マニュアルの持つ落とし穴、その身近な例の一つです。

一方で、こういう話もあります。東京ディズニーランドの中にあるレストランでのお話です。

ある若いご夫婦が、二人がけのテーブルに座り、食事のオーダーをしました。

「Aセット一つと、Bセット一つ、お願いします。」 ウェイトレスが注文を受け、その場を離れようとした時、ご夫婦はしばし顔を見合わせ、言いました。

「それと、お子様ランチを一つ頂けますか？」

ウェイトレスはテーブルを見渡し、「お客様、誠に申し訳ございませんが、お子様ランチは小学生のお子様までと決まっておりますので、ご注文は頂けないのですが…。」

すると、そのご夫婦はにっこり微笑んで、「すいません、それならいいです。」と言いました。

しかし、何だか気になったウェイトレスは、勇気を出してマニュアルから一步踏み出し、尋ねました。「失礼ですが、お子様ランチはどなたが食べられるのですか？」

ご夫婦はしばらく顔を見合わせた後、話し出しました。

「実は、私たちには、以前娘がおりました。しかし、幼くして亡くしてしまって、一度もディズニーランドに連れてくるのが出来ませんでした。娘を亡くしてからは、しばらく何をやる気力も起きず、呆然と毎日を過ごしていたのですが、最近ようやく落ちついてきたので…。今日は、亡くなった娘の誕生日だったものですから…。親子三人で一日楽しもうと、ディズニーランドにお邪魔したんです。思い出に三人で一緒に食事をしようと思ってつい、お子様ランチを頼んでしまいました。あ、でも今日はもう十分楽しませて頂きましたので…」

そう言いながら二人は再び、ウェイトレスに微笑みかけました。

ウェイトレスはその場でご夫婦に頭を下げ、「かしこまりました」と答えました。そして、そのご夫婦を二人掛けのテーブルから、四人掛けの広いテーブルに案内しました。

その数分後……。運ばれてきたのは、ご夫婦のオーダーした料理と、『お誕生日おめでとう』のプレートが立ったお子様ランチでした。子供用のイスを持ったウェイトレスもいました。

「お客様、大変お待たせいたしました。ご注文のお子様ランチをお持ちいたしました。お子様のイスは、お父さんとお母さんの間でよろしいですか？ では、ゆっくりと食事をお楽しみください。」 ウェイトレスはそう言って頭を下げ、その場を去りました。

後日、このご夫婦から手紙が届いたそうです。

「あの日、食事をいただきながら、涙が止まりませんでした。まるで娘が生きているような、家族の団らんを味あわせていただきました。あのような優しい思い出をいただけるとは、夢にも思いませんでした。今度はあの子の妹か弟を連れて、きっとまた遊びにきます。」

このウェイトレスの行動は、明らかにマニュアル違反でした。しかし、結果として、お客様にとってはこの上ないもてなしとなりました。

以上、卒業式にはふさわしい話でなかったかもしれませんが、でもこの話から、皆さんにさまざまなことを感じ取ってもらいたい。

繰り返しますが、マニュアルは大切なもの、必要なものです。これを無視して社会を生きるは行けません。しかし、マニュアルでは対応しきれない事態は必ず起こります。そのときに、どういう行動がとれるか。人の価値はそこで決まると言ってもいい。

では、どうすれば適切な行動が取れるのか。そのカギは、月並みですが、「思いやる心」。つまり、思いやる心を以て考えを巡らすこと、これに尽きるのではないかと思います。マニュアルにしがみついても何も考えないのは論外。しかし、たとえ何か考えたとしても、自分の立場を守ろうとか、損したくないといった思いに支配されると、結局は事を誤ります。

公正な心で、目の前の人を思いやる、目の前にはいない人々を思いやる、あるいは社会に対する影響を思いやる。そして、行動する。決して簡単ではありませんが、皆さんのすべてが、ぜひそうであってほしい。マニュアルを超える場面に対応できる大人になってほしい。君たちには、それができるはずだ。これが私からのメッセージです。

さて、皆さん、いよいよ本校を巣立つときが来ました。社会は君たちを必要としています。どうかこの南高で培った自信と誇りを胸に、そして時には、「質実剛健、創造進取、和敬共栄」——この校訓の精神を思い出しつつ、前進を続けて下さい。

皆さんの前途に幸多からんことを心よりお祈りし、期待し、式辞とします。